

令和7年度  
教職課程  
自己点検評価報告書

大阪経済大学  
教員養成カリキュラム委員会

令和7年12月

1. 教職課程の現況

(1) 大学名：大阪経済大学

(2) 所在地：大阪府大阪市東淀川区大隅 2-2-8

(3) 学生数及び教員数

教職課程履修生数 241 名/教職課程を担当する専任教員数 144 名

(令和 7 年 5 月 1 日現在)

(4) 大阪経済大学 教職課程認定学部・学科一覧

1) 学部

学部学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
経済学部 経済学科	社会	地理歴史・公民・商業
経営学部 第1部経営学科	社会	公民・商業
経営学部 第1部ビジネス法学科		公民・商業
経営学部 第2部経営学科		商業
情報社会学部 情報社会学科		商業・情報
人間科学部 人間科学科	社会・保健体育	公民・保健体育
	養 護	

2) 大学院

研究科（課程）	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
経済学研究科（博士前期課程）	社会	地理歴史・公民・商業
経営学研究科（修士課程）	—	商業
経営情報研究科（修士課程）	—	商業・情報

## 2. 教職課程自己点検評価

大項目	教育理念・学修目標
レベル	大学全体
中項目	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定状況
自己点検・評価項目	全免許課程において教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画が策定されているか。
自己点検・評価結果	前回点検時に未整備であった大学院に関する教職課程（専修免許状）の目標及び当該目標を達成するための計画について、作成し、公表している。新設された国際共創学部について、教職課程の目標及び当該目標を達成するための計画について未整備であった。
根拠となる資料	大学ホームページ <a href="https://www.osaka-ue.ac.jp/education/curriculum/jyouhou.html">https://www.osaka-ue.ac.jp/education/curriculum/jyouhou.html</a>
改善を要する点の改善策	国際共創学部に関する教職課程の目標及び当該目標を達成するための計画について、学部教職課程教員を中心に原案を作成し、教員養成カリキュラム委員会で検討を行う。

大項目	教育理念・学修目標
レベル	大学全体
中項目	教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画の策定プロセス
自己点検・評価項目	学部（一種免許状）免許課程の策定のプロセスにおいて学生の意見や近隣自治体の教育育成指標を参考に作成しているか。
自己点検・評価結果	前回点検時に引き続き、教職課程カリキュラムを策定する際の参考とするために情報を収集している。
根拠となる資料	①大阪市教員としての資質の向上に関する指標 ②大阪府教員等育成指標
改善を要する点の改善策	引き続きカリキュラムの見直しにあたり、授業での学生からの意見や各自自治体の指標を参考に作成する予定である。

大項目	授業科目・教育課程の編成実施
レベル	大学全体
中項目	複数の教職課程を通じた授業科目の共通開設など全学的な教育課程の編成状況
自己点検・評価項目	複数の教職課程間における授業科目の共通開設は、開設に責任を負う学科等の強み・特色を生かしつつ適切に行われているか。
自己点検・評価結果	2026年度より次のとおり予定している。 ①66条の6の科目として「体育」科目ならびに「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」科目の適用学部・学科の変更
根拠となる資料	教育課程の変更届
改善を要する点の改善策	その他の学部学科のカリキュラムの変更で該当する科目があれば引き続き対応を検討する。

大項目	授業科目・教育課程の編成実施
レベル	大学全体
中項目	教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備の整備状況
自己点検・評価項目	ICT（情報通信技術）環境（オンライン授業含む）、模擬授業用の教室、関連する図書など、教職課程の授業科目の実施に必要な施設・設備が整備されているか。
自己点検・評価結果	学内のWiFi環境の整備や図書館、教職課程事務室での図書や雑誌の貸し出しなどを適切に行っている。特に、前回点検時に設置されていなかった、「英語」の免許に関する図書を中心に、充実を図った。
根拠となる資料	①教職課程事務室所蔵図書・雑誌一覧表 ②教職課程事務室所蔵図書・雑誌貸出実績一覧表
改善を要する点の改善策	引き続き、教職課程事務室窓口で教職課程履修生のニーズに応じた図書や雑誌を揃えて、KVCを通じ推薦するなどして活用を促す。

大項目	授業科目・教育課程の編成実施
レベル	授業科目
中項目	教員の養成の目標の達成状況（学修成果）を明らかにするための情報の設定及び達成状況
自己点検・評価項目	「教育の基礎的理解に関する科目等」において、法令、教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画、学習指導要領及び教職課程コアカリキュラムへの対応が図られているか
自己点検・評価結果	教職専門科目の適切性の確認は 2025 年度人間科学部養護教諭課程における課程認定申請を行い認定されている。
根拠となる資料	課程認定申請書類
改善を要する点の改善策	引き続き課程認定申請の手引きを確認し、必要に応じて適切に対応する。

大項目	学修成果の把握・可視化
レベル	学科等
中項目	個々の授業科目の到達目標の設定状況
自己点検・評価項目	教員の養成の目標の達成状況を明らかにするための情報が適切に設定されており、それがどの程度達成されているか、教職実践演習に向けた「履修カルテ」を適切に活用できているか。
自己点検・評価結果	<p>教職課程ポートフォリオの形式等について、学生の取り組みの様子を踏まえて以下の内容を実施した。</p> <p>①教職実践演習において、教職課程全体をふりかえるために教職課程ポートフォリオを作成し、検討会を実施している。このポートフォリオは、履修カルテの各項目に関するこれまでの自己評価をふりかえり、その評価の根拠資料を考え整理するものである。これを通して、教員としての求められる資質に照らして自らの学びの履歴を客観的に把握し、意味づけなおし、今後の課題を展望することを促している。</p> <p>②例年、教職課程の入門科目である「教職概論」において、上記の教職課程ポートフォリオを紹介し、履修カルテの活用を促している。</p> <p>③養護課程においては別様式で作成できるよう準備している。</p>
根拠となる資料	<p>①履修カルテ結果表</p> <p>②教職課程ポートフォリオテンプレート</p> <p>③教職概論での紹介スライド</p> <p>④教職実践演習での教職ポートフォリオの説明</p>
改善を要する点の改善策	引き続き、教職課程ポートフォリオの形式等について、学生の取り組みの様子および文部科学省の指針をふまえて、適宜改善を検討する。

大項目	学修成果の把握・可視化
レベル	授業科目
中項目	成績評価の状況
自己点検・評価項目	各授業科目の到達目標に照らして公正で透明な成績評価という観点から達成水準を測定する手法やその配点基準があらかじめ明確になっているか。
自己点検・評価結果	前回点検時に引き続き「成績評価基準等に関する規程」に評価基準を定め、評価方法については、すべての授業科目で整備しているシラバスに、各科目に適した方法を明記している。
根拠となる資料	教職課程科目のシラバス
改善を要する点の改善策	引き続き全学的なシラバスチェック体制の中で明確にしてゆく。

大項目	教職員組織
レベル	大学全体
中項目	教員の配置の状況
自己点検・評価項目	教職課程認定基準（平成13年7月19日教員養成部会決定）で定められた必要専任教員数を充足しているか。
自己点検・評価結果	教員の配置状況については、専任教員数を充足するように各課程の教員数を毎年度チェックしている。 教員の退職や異動などにより、所定の専任教員数が不足する場合には、学部・研究科と調整を図って教職課程科目としての追加とともに専任教員数が充足するように対応している。
根拠となる資料	教育課程の変更届
改善を要する点の改善策	引き続き必要専任教員数を充足するよう、各課程の教員数をチェックして届出を行う。

大項目	教職員組織
レベル	大学全体
中項目	職員の配置状況
自己点検・評価項目	教職課程を適切に実施するため、事務組織を設け、必要な職員数を配置できているか。
自己点検・評価結果	前回点検時より増員し、教務・国際部 学習支援課に教職課程担当者がおり、課長 1 名、専任職員 2 名、準職員 1 名の体制で関連業務を担っている。
根拠となる資料	①事務組織図 <a href="https://www.osaka-ue.ac.jp/profile/organization/">https://www.osaka-ue.ac.jp/profile/organization/</a> ②職員名簿
改善を要する点の改善策	再課程認定申請業務など特に事務量が増える年度には増員等の検討も必要である。

大項目	情報公表
レベル	大学全体
中項目	学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 172 条の 2 のうち関連部分、教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に定められた情報公表の状況
自己点検・評価項目	法令に定められた情報公表が適切に行えているか。
自己点検・評価結果	前回点検時に課題であった、大学院の情報公表については行っている。今後も引き続き過去の自己点検結果も含め、適切に公開し、更新を行っていく。
根拠となる資料	大学ホームページ <a href="https://www.osaka-ue.ac.jp/education/curriculum/jyouhou.html">https://www.osaka-ue.ac.jp/education/curriculum/jyouhou.html</a>
改善を要する点の改善策	国際共創学部が設ける教職課程の目標及び当該目標を達成するための計画について、学部教職課程教員が原案を作成し、養成カリキュラム委員会で検討を行う。

大項目	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）
レベル	大学全体
中項目	教職課程を履修する学生の確保に向けた取組の状況
自己点検・評価項目	教職課程に関する積極的な情報提供の実施ができているか、教員の養成の目標に照らして適切に学生を受け入れているか。
自己点検・評価結果	積極的な情報提供、適切な学生受け入れを行うため、以下内容を実施している。 ①新入生オリエンテーション期間中に希望者を対象にガイダンスを行っている。 ②1年生秋学期から始まる導入科目である「教職概論」を履修登録した学生を対象に、「教職履修のてびき」をもとに教職課程全体の説明を行い、その趣旨を理解した学生のみを教職課程履修生として登録をさせている。 ③教職課程事務室から教職課程に関する情報発信を行っている。 ④外部委託先に依頼している人物対策講座やサークル「教師のたまご」、大樟教育研究会などの広報を行っている。
根拠となる資料	①冊子「教職課程の履修のてびき」 ②教職課程履修生向けのKVCの関連記事
改善を要する点の改善策	引き続き説明会や広報活動を適切なタイミングで行う。

大項目	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）
レベル	大学全体
中項目	学生に対する履修指導の実施状況
自己点検・評価項目	必要な体制や施設・設備を整えた上で、個々の学生の教職に対する意欲を踏まえつつ、学生に教職課程の履修に当たって学修意欲を喚起するような適切な履修指導が行えているか、「履修カルテ」を適切に活用できているか。
自己点検・評価結果	①新入生向けのオリエンテーション期間中に希望者を対象にガイダンスを行っている。 ②1年生秋学期から始まる導入科目である「教職概論」を履修登録した学生を対象に、「教職課程の履修の手引き」をもとに教職課程全体の説明を行い、その趣旨を理解した学生のみを教職課程履修生として登録をさせている。 ③教職課程事務室から教職課程に関する情報発信を行っている。 ④外部委託先に依頼している人物対策講座や、サークル「教師のたまご」、大樟教育研究会などの広報を行っている。
根拠となる資料	①冊子「教職課程の履修のてびき」 ②教職課程履修生向けのKVCの関連記事
改善を要する点の改善策	引き続き説明会や広報活動を適切なタイミングで行う。

大項目	教職指導（学生の受け入れ・学生支援）
レベル	大学全体
中項目	学生に対する進路指導の実施状況
自己点検・評価項目	学生に教職への入職に関する情報を適切に提供するなど、学生のニーズに応じたキャリア支援体制が適切に構築されているか。
自己点検・評価結果	ニーズに応じたキャリア支援体制を構築し、以下内容の業務に取り組んでいる。 ①各自治体からの教員採用に関する案内文書等を教職課程担当へ集約して、KVCなどを通じて広報を行っている。 ②教員採用試験に関するガイダンスを実施し、試験対策の情報を提供している。 ③教職課程窓口で随時、照会があった場合は教員採用に関する情報について提供している。
根拠となる資料	教職課程履修生向けのKVCの関連記事
改善を要する点の改善策	教員採用試験の試験実施方法の変更などの情報をタイミングよく適切に提供する。

大項目	関係機関等との連携
レベル	大学全体
中項目	教育実習等を実施する学校との連携・協力の状況
自己点検・評価項目	教育実習を実施する学校と適切に連携・協力を図り、実習の適切な実施につなげることができているか、学校インターンシップなど学校現場での体験活動を行う機会を積極的に提供できているか。
自己点検・評価結果	前回点検時より学校インターンシップでは実習校を増やし、実習内容やスケジュールを実習校と学生双方に確認してマッチングを行っている。 教育実習では訪問指導を希望された学校現場には全学的な協力を得て訪問指導を行っており、それ以外に実習途中で追加的に要望があった場合には可能な範囲で対応している。 実習中に不測の事態があった場合は教職担当の教職員で協議して、迅速に訪問を実施している。
根拠となる資料	①学校インターンシップ関連の説明資料 ②教育実習内諾依頼書 ③教育実習訪問指導一覧
改善を要する点の改善策	引き続きニーズや適性を見極めて実習校と実習生がスムーズに実習できるよう機会提供してゆく

大項目	関係機関等との連携
レベル	大学全体
中項目	学外の多様な人材の活用状況
自己点検・評価 項目	学外の諸機関との連携の下、教育課程を充実するために学外の多様な人材を実務経験のある教員又はゲストスピーカー等として活用することができるか。
自己点検・評価 結果	<p>前回点検時に引き続き、外部講師を招聘し以下内容の講義を行っていただいている。</p> <p>①実習科目である「学校インターンシップ」の事前講義を、大樟教育研究会を通じて学校現場での経験がある外部講師に依頼している。</p> <p>②「保健体育科実践Ⅰ・Ⅱ」の講義内で学校現場での取り組みについて講義いただいている。</p>
根拠となる資料	①学校インターンシップ関連の説明資料
改善を要する点 の改善策	引き続き、外部講師による講義の機会を設けられるようにする。